

	<p>7月初め、SCMSI ハイスクール生クインテッドに里親から誕生カードが届きました。精神的里親方式によるチボリ教育支援は、HANDS が引き継いだ今も一部里親と里子の交流が続いています。</p>	 <p>2019年7月25日発行</p>	<p>NPO 法人ビラーンの医療と自立を支える会 (英文名略称・HANDS) 本部：〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町 516-11 TEL &amp; FAX:045-500-9151 E-mail: hands-mindanao@nifty.com http://hands-mindanao.a.la9.jp/ 郵便振替口座 00210-5-72693 (加入者名) ビラーンの医療と自立を支える会</p>
--	---	---	---

## 令和1年目は、しばし立ち止まり、振り返る年度に — 活動も、紙面もコンパクトに —

### 環境保全や女性自立事業の規模を縮小します

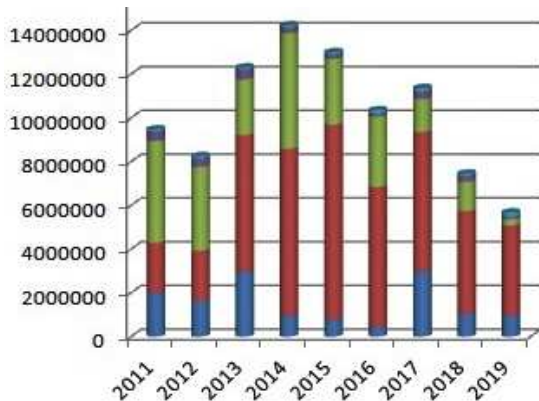
新しい元号の下、2019年度の活動も4か月目を迎えて、継続事業の助産所支援や奨学金事業のほか、6月1日開催の社員総会で承認された事業計画・予算に基づいた各分野の支援活動を順次実施しております。また、本会報を手にされてお気づきのよう、総会では、「ビラーン通信」のページ数を原則4ページに減らす件も承認されました。

会報のページ数は、事業内容や規模の拡大・縮小（下記グラフ参照）のほか、現地の治安状況によるモニター機会の多寡など各種状況に応じてきました。今年度も原則4ページとするものの、柔軟に対応の予定です。

また、今年度の事業予算が、直近9年間で最少の600万円を下回るコンパクトなものになったのは、2003年度以降継続した助成金を受けて実施のアグロフォレストリー事業の新規実施見合わせが主な理由です。

傾斜地農法によるアグロフォレストリーは、温暖化防止という持続可能な開発目標SDGsに貢献するために、また、山岳先住民族の収入向上のためにも最優先で取り組みたい事業ですが、治安面で私たちの事業モニターが難しいこと、現地パートナー・PFPも農業専門常勤はニックさん1名に減ったことなどから、今年はニックさんには評価活動に専念していただき、新規事業に向けての課題確認の年と決めました。

また、マニラや地元レイクセブなど国内市場開拓で自立が進むCOWHEDや、過去2年の支援成果が認められるナバルタビ織振興等、女性自立支援も減らした結果、総事業費（予算）は昨年度の約75%弱になりました。アグロフォレストリーを4件実施した2014年度と比較すると2019年度（予算）は40%程度の事業規模です。



年度別、分野別事業規模の推移 (左欄グラフ)

### 2011-2018年度決算と2019年度予算

- 主に助成金によるアグロフォレストリー事業からなる農村開発・環境保全事業
- 教育支援事業。2013年度以降の増額はJOFPAのSCMSI校支援(チボリ子ども支援)引継ぎによる
- 医療支援。2013年度でCMIP ジョジョさんの活動とその支援終了。2017年度は助産所建設で増額

### 「ビラーン通信」を6ページから4ページへ

### — 1号以降 これまでの経緯 —

現地の課題と支援の成果を伝える「ビラーン通信」、1996年7月発行の第1号は2ページ、以降2003年度の34号までは4ページが基本で、6ページになったのは35号からです。NPO法人「少数民族里親の会」(略称FOT)の事業を引き継ぎ、農業専門家チームPFPとのアグロフォレストリー事業を開始した時期です。さらに、2013年6月には「チボリ国際里親の会」(略称JOFPA)の教育支援を引き継ぎ、74号から8ページになりました。6ページに戻したのは2016年度の87号で、ドゥテルテ大統領就任の時期です。新大統領はミンダナオの和平推進を掲げましたが、

山岳部ではむしろ治安悪化が伝えられ、戒厳令も再度延長されました。私たち自身が確認した成果や課題を会報で伝える上で大きな障害となっています。

公式、非公式事業モニターによる報告や寄稿をいただいた場合には適宜ページ数を増やして、新鮮な現地情報を皆様にお届けする予定です。

活動も会報も「コンパクト」になりますが、役員、事務局ともに、中身の濃いものを目指します。

令和元年度もよろしくお願いいたします。(山崎)